

川越に残る江戸の人形・山車人形・節句人形

江戸天下祭(神田祭・山王祭)の面影を今に伝えるといわれる川越氷川祭の山車行事。祭りで見られる江戸型山車の人形は、江戸後期から明治初期に、鼠屋五兵衛、原舟月、古川長延、仲秀英といった江戸を代表する人形師に直接注文して製作されたものばかりです。江戸の人形の特徴は、胡粉で真っ白に塗られ硬くつやつやした肌や、きらりと光を反射するガラス眼(玉眼)です。現代で好まれるかわいらしい顔とは異なり、切れ長でつり上がった目をした浮世絵風で、当時の流行や人々の好み、美意識が人形全体に表れています。



幸町山車人形・翁(三代仲秀英作)

ひな祭り(上巳の節句)やこどもの日(端午の節句)に飾られる節句人形も同様の特徴があります。川越では例年、一番街の蘭山記念美術館や服部民俗資料館で江戸のひな人形や五月人形が公開されています。慶応元年製の服部家の五月人形は、のぼり旗などとともに三代仲秀英の作で、江戸文化漂う当時の川越商家の節句行事を今に伝えてい



服部家・五月人形

す。かつて江戸では、祭礼や節句行事等、人々の信仰や風習に支えられ、人形が盛んに作られました。現在の東京にはあまり残されていません。川越に残る人形に、江戸の人形文化の面影を見ることが出来ます。



農政課 224-5939

菜の花

これからの季節、黄色い花を咲かせ、私たちの目を楽しませてくれる菜の花。春を告げる食材としてもなじみが深いですが、実は特定の植物の名前ではなく、コマツナやハクサイ、ブロッコリーなど、アブラナ科アブラナ属の花の総称です。

「野菜の種類によって異なる味わいが楽しめます。例えば3~5月に出荷されるコマツナの菜の花は、あくがなく食べやすいですよ」と話すのは、食用に菜の花を栽培する長澤一雄さん(鴨田)。それぞれの株に栄養が十分に行き渡るように、種のまき方や肥料の量に気を配っているそうです。

長澤さんに選び方のコツを伺うと、「茎が太くて葉が柔らかいものを選ぶといいですよ。新鮮なうちにさつとゆでて、少し多めのカラシをあえるとおいしいです」と教えてくれました。



チバチの菜の花

長澤さんの菜の花は、伊佐農産物直売所等で購入することができます。春の暖かさを感じながら、川越の旬の食材をぜひ味わってみてください。

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

菜の花、ブロッコリー、ホウレンソウ、コマツナ、ニンジン、イチゴ、サトイモ、ゴボウ、サニーレタス、カブ、ダイコン



作り出しているようでした。夫」というメッセージ、地域の皆さんの穏やかなまなざしが、ほっと一息つける空間を作り出しているようでした。

赤

ちゃんから楽しめるコンサートが開かれると聞き、東部地域ふれあいセンターを訪ねました。南古谷地域会議主催の「0歳からのコンサート in みなみふるや」です。会場ではピンクのバンドナを身に付けた地域の皆さんが、たくさんの親子を笑顔で迎えていました。音楽に合わせて体を動かしたり、チェロやフルートの音色に聞き入ったり。「子どもにも音楽を聞かせたくて参加しました。親子で楽しく過ごせました」「身構えずに参加できるのがいいですね」と参加者の皆さん。すてきな音楽と「泣いても大丈夫」というメッセージ、地域の皆さんの穏やかなまなざしが、ほっと一息つける空間を作り出しているようでした。

編集後記

どんぐり

広報川越1386

発行日/平成29年3月10日(毎月10日・25日発行)

発行/川越市 〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>
市役所代表 ☎049-224-8811 ☎049-225-2171

編集/広報室

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。

リサイクル適性

Fontworks
UDFont